

## 予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：林業振興費

## 事業名 林業技術安全向上推進事業補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 岐阜県立森林文化アカデミー 教務課 電話番号：0575-35-2525(内207)

E-mail : c21907@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 311 千円 (前年度予算額) 311 千円

## &lt;財源内訳&gt;

区分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債
前年度	311	0	0	0	0	0	0	0
要求額	311	0	0	0	0	0	0	0
決定額								

## 2 要求内容

## (1) 要求の趣旨(現状と課題)

岐阜県の森林技術者は年々減少しており、939人(令和2年度末)となっている。岐阜県の森林整備等を行うのに必要な森林技術者数は1,140人(R8目標)であり、技術者の増加が求められている。継続的に森林づくりを進めるためにも若い人材の育成確保が必要不可欠である。

また、県内での林業における死傷災害件数はR3:43件(全国8位)と少なくなく、うちチェーンソー作業中の災害が19件と44%を占める。作業災害は技術不足、不安全行動が原因となっており、高い基礎技術、安全意識を持った人材の育成が求められている。

## (2) 事業内容

森林文化アカデミーでは、林業を担う森林技術者として必要な造林・育林などの森林の実践的な管理技術や伐採・搬出の安全で効率的な木材生産技術を実践的に学んでいる。

しかし、より林業技術や安全作業が必要であるため、学生たちは、授業以外にも自主的に木材生産技術の取得のために日々研鑽している。

近年、全国規模で伐木選手権が開催されており、大会参加を通してより一層技術や安全意識が向上することが期待できる。選手権に参加することにより学生の技術向上へのモチベーションを向上させ、優秀な人材を育成するため、伐木選手権の参加費及び旅費を補助する。

## (3) 県負担・補助率の考え方

森林文化アカデミー運営に関わることのため、県において全額負担することが妥当

## (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
負担金補助及び交付金	311	全国伐木選手権に参加する学生に対する補助金 @62,137円×5名
合計	311	

## 決定額の考え方

（1）後年度の財政負担

森林文化アカデミーの学生に関することなので継続的助成

## 4 参考事項

# 県単独補助金事業評価調書

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

## (事業内容)

補助事業名	林業技術安全向上推進事業費
補助事業者（団体）	学生 (理由) 全国規模の大会参加のための参加費や旅費が高額となるため補助する。
補助事業の概要	(目的) レベルの高い林業技術者等を養成するため、林業技術や安全作業意識の向上のための機会を与える。  (内容) 全国規模の大会に参加するため、希望する当学学生の経費の一部を補助する。
補助率・補助単価等	<b>定額</b> 定率・その他（例：人件費相当額） (内容) 参加費・旅費経費の1／2相当分を補助 (理由) 参加費・旅費経費を算出した上で決定。
補助効果	林業技術や安全作業意識の向上を図り、優秀な森林技術者の育成を行う。
終期の設定	終期 なし (理由) 継続的に優秀な森林技術者を育成する必要があるため。

## (事業目標)

- ・終期までに何をどのような状態にしたいのか

県内の森林技術者は減少しており、優秀な森林技術者の育成確保が急務である。森林文化アカデミーの教育目的の核は、現場で即戦力として働く森林技術者の育成であることから、本事業の実施により学生の林業技術や安全意識の向上を図り、優秀な森林技術者を育成、卒業生を県内に供給することで、県内の森林技術者数の確保に貢献する。

## (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R4)	R5年度 実績	R6年度 目標	R7年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
森林技術者数	939 (R2末)	940	1,060	1,100	1,140	

補助金交付実績 (単位：千円)	R4年度	R5年度	R6年度	
	-	20	186	

## (これまでの取組内容と成果)

令和4年度	
指標① 目標 : _____ 実績 : _____ 達成率 : _____ %	
令和5年度	「日本伐木チャンピオンシップ」に4名の学生が参加した。事前練習や大会参加で得られた学びを通じ、チェンソーの操作技術や安全作業意識の向上が図られた。
指標① 目標 : 1,140 実績 : 940 達成率 : 83 %	
令和6年度	「日本伐木チャンピオンシップ」に2名の学生が参加した。事前練習や大会参加で得られた学びを通じ、チェンソーの操作技術や安全作業意識の向上が図られた。
	指標① 目標 : 1,140 実績 : 898 達成率 : 78%

## (事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)	
3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない	
(評価) 2	効率性と安全性を兼ね備えた森林技術者の育成が求められている。林業技術や安全意識の向上を図るため、大会参加への支援は必要である。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3 : 期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2 : 期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1 : 期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0 : ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)	
(評価) 2	令和5年度は学生4名が大会参加した。大会参加を契機に、安全作業に欠かせない基礎技術の確実な習得に向けて練習を重ねており、今後の有能な林業技術者教育につながっている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている	
(評価) 2	参加した学生は報告会やホームページでの活動報告を行い、他の学生と情報共有するとともに、次年度以降の大会に自ら参加し学びたい学生の志気向上が図られる。

## (今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項
当該補助額が、大会参加者負担額に対し、十分な負担軽減となりうるかどうかの実証。

## (次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
県土面積の82%を占める森林が健全であることは、「清流の国ぎふ」を将来にわたり維持し、県民の生活環境と山村地域住民の生活を守るうえで不可欠である。そのため、優秀な森林技術者の養成機関である森林文化アカデミーに課せられた責任は大きく、またその県民の負託に応えられるよう、優秀な人材を輩出する必要がある。